

(抜粋)

沖 縄 県

「平成27年度耐震不適格建築物基本調査業務」

簡 易 診 断 マ ニ ュ ア ル

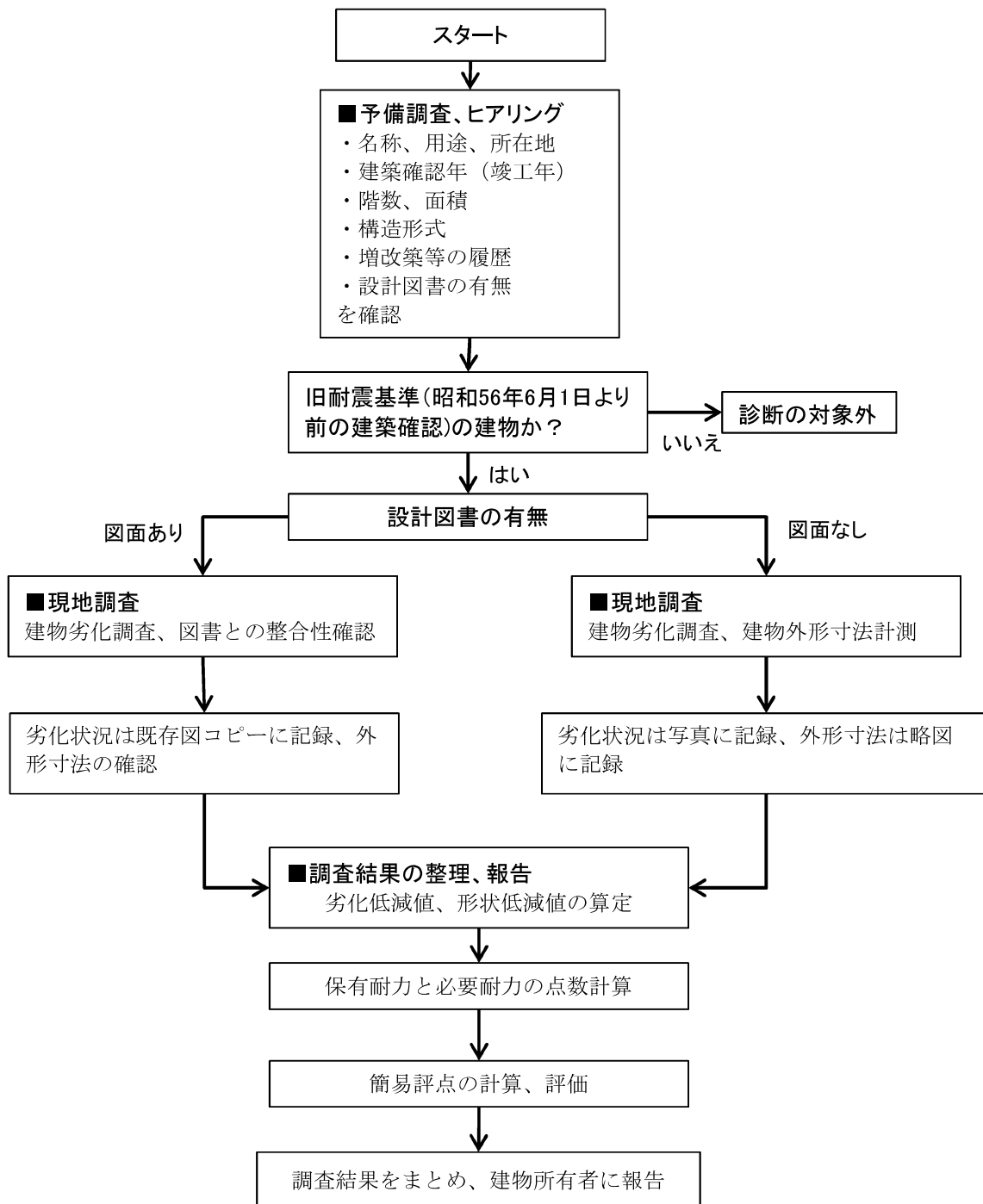
平成28年3月

沖縄県土木建築部建築指導課

報告書作成の手引き (RC造)

- ・簡易診断フローチャート
- ・現地調査の進め方
- ・報告書例

RC造住宅の簡易診断 フローチャート



簡易診断の調査について

鉄筋コンクリート住宅の簡易診断で調査は2段階あります。まず、資料、ヒアリングをもとに机上で行う予備調査があり、次に現地で行う現地調査があります。現地調査では、建物を目視で調査し、ひび割れ、剥落、浮きの劣化に関するものと、図面との整合性の確認や図面が無い時は建物の外形寸法を測定し記録します。

予備調査で確認すること

- 建物名称、用途、所在地：建物の基本情報
- 建築確認年月（竣工年）：申請の有無を確認
- 構造種別、階数、床面積：建物構造、規模を確認
- 増改築の有無：新築時からの変更の有無を確認
- 設計図書の有無：どの図書があるかを確認

現地調査の準備(用意するもの)

- ・調査に使用する道具等



写真. 調査道具

- ア：メジャー：建物寸法の計測用
- イ：双眼鏡：高い箇所を目視用
- ウ：ライト：暗い箇所（天井裏など）の調査用
- エ：打診ハンマー（仕上げ用）：先端に球がついたものです。
- オ：打診ハンマー（RC躯体用）：仕上げ用と違い、丈夫なハンマーを使用します。
- カ：棒付き鏡：見にくい場所用に使用します
- キ：下げ振り：不同沈下による傾きを確認します
- ク：金尺
- ケ：クラックスケール：ひび割れ幅を計測します

その他の持ち物

- ・デジタルカメラ
- ・野帳用図面（既存設計図をコピーし活用すること）
- ・現地調査チェックリスト
- ・チョーク：劣化場所を示す用（発注者に確認すること）
- ・そのほか、ヘルメット、脚立など

・現地調査に行く前に

実際の建物に調査へ行く前に既存図などを確認しておくとお戻りが少なくなります。疑問点をチェックリストにメモしておくことで確認がしやすくなります。

- 既存図がないため建物の寸法が不明
→ 現地調査時に寸法の測定を行う
- 既存図に重量設備の記載はあるか
→ 現地調査時に屋上などを確認、固定状況の写真をとっておく
- 増築や改築などの有無
→ 現地調査時に現状と申請時の違いがあるかの確認

・現場調査チェックリスト

チェックリストは調査者が、記録漏れが無いように各自で作成する任意の書類になり、調査者の確認用として用います。現地調査の前に調査内容を整理しておきます。

また現地での調査漏れを防ぐためにも作成を勧めます。使い方としては、現地で調査を一通り終えた後の確認用とします。

調査のチェック項目としては、図面と現状の整合性の確認や劣化状況の記録を行ったかを確認します。以下に参考として項目を示しますが、建物の用途や構造等により変わりますので、追加する場合は各自、行ってください。

- ・ 現地で設計図書との整合性の確認をしたか
- ・ 現地で使用状況の確認をしたか
- ・ 現地で開口形状の確認（設計図書との整合）をしたか
- ・ 現地で雑壁等の有無を確認したか
- ・ 調査においてひび割れの有無を確認したか
- ・ ピロティまたは耐力壁の下の階の壁抜けの有無を確認したか
- ・ 図面にひび割れの部分を記載したか
- ・ 外観写真は原則として四面すべて撮影したか
- ・ ひび割れ、劣化調査における各部の状況写真を撮影したか
- ・ 調査写真
報告書に使用するため、横撮りで統一して撮影を行います。劣化は写真に写りにくいため、近景・遠景の両方で撮影を行って下さい。図面が無い場合は報告書の資料となるので確実に記録してください。
- ひび割れ（クラックスケールを用いた写真、またひび割れ全景）
- 剥離、剥落（周辺を打診して浮きを確認）
- 露筋、錆汁、白華現象（周辺を打診して浮き、ひび割れを確認）
- 仕上げ、躯体浮きの確認（打診棒などを用いた写真）
- ジャンカ、打継ぎひび割れなど



写真. ひび割れ幅の測定



写真. ひび割れ遠景

・現地調査を行う上での留意点

現地調査中に直ちに撤去が必要である劣化、その他付属物を確認した場合、現地調査終了後に速やか所有者又は管理者へ連絡する必要があります。



写真. 屋上パラペット笠木の剥落



写真. ベランダ床の剥離

写真のような劣化は剥落後に落下し、建物利用者を害する可能性があるため、早期に撤去、または落下防止ネットの設置、落下想定位置を立入り禁止にする、などの対策が必要です。

・調査の記録

既存図面が有る場合は、野帳として活用します。記載例は報告書の例を参考にしてください。
図面がない場合は写真に記録しておきます。

・劣化低減値の算出の結果整理

劣化の低減値は、全部材数に対する劣化部材数の割合から算出します。調査記録から劣化部材数を集計します。劣化ランク別に整理し、集計表を作成しておくこと、根拠資料になります。報告書の例を参考にしてください。

RC造

平成〇〇年〇月〇日

〇〇氏住宅簡易診断報告書

建物外観写真

撮影日：平成〇〇年〇月〇日

診断実施事務所	〇〇〇〇建築設計事務所	
代表者	〇〇〇〇	印
事務所登録番号		
調査員名	〇〇〇〇	印
登録番号		
調査日	平成〇〇年〇月〇日	

RC造	〇〇氏 邸簡易耐震診断結果	日付	平成28年1月22日	□診断結果作成のための解説 建物の平面・立面形状による低減は図面をもとに算出します。各項目の計算結果から該当する影響値が低減の割合を示しています。各項目の採用値をすべて掛けて求めたものが、建物の低減となります。																																																																																																																					
事務所名 〇〇〇 代表者名 〇〇〇 登録番号 〇〇〇 電話番号 〇〇〇		調査員 〇〇〇 登録番号 〇〇〇 調査日		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">項目：計算式</th> <th colspan="3">← 評価 →</th> <th rowspan="2">採用値</th> </tr> <tr> <th style="background-color: #0070C0; color: white;">良い</th> <th style="background-color: #FFD700;">普通</th> <th style="background-color: #FF0000; color: white;">悪い</th> </tr> </table>				項目：計算式	← 評価 →			採用値	良い	普通	悪い																																																																																																										
項目：計算式	← 評価 →			採用値																																																																																																																					
	良い	普通	悪い																																																																																																																						
1.対象建物概要 1) 名称 〇〇氏邸住宅耐震診断業務 2) 所在地 沖縄県那覇市泉崎〇〇 3) 構造規模 RC造 地上2階、地下なし、塔屋なし 4) 用途 住宅 5) 建設年 昭和55年竣工(築36年)		2)本診断の位置づけ ・この簡易診断は建物が保有する性能も、必要とする性能も持ち点が100点として検討するものです。 ・保有性能の100点は過大な評価ですが、本診断では建物の外形情報による診断結果を予測するために劣化、建物の立地や形状による影響を把握します。 ・昭和56年法改正以前に地震力が本土の半分で設計されていた時期があることから、保有性能に考慮しています。		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>a. 整形性</td> <td>0.1未満</td> <td>$0.1 \leq a < 0.3$</td> <td>0.3以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>突出部面積/床面積=</td> <td>なし</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.9</td> <td>影響値 0.8</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>b. 辺長比</td> <td>5以下</td> <td>$5 < b < 8$</td> <td>8以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>長辺長さ/短辺長さ=</td> <td>10.8/7.1=1.52</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.95</td> <td>影響値 0.9</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>c. くびれ</td> <td>0.8以上</td> <td>$0.8 > c > 0.5$</td> <td>0.5以下</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>凹部長/凸部長=</td> <td>なし</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.95</td> <td>影響値 0.9</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>d. EXP.J</td> <td>なし、0.01以上</td> <td>$0.01 > d \geq 0.005$</td> <td>0.005未満</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>EXP.J間隔/EXP部建物高さ=</td> <td>0.1/3.7=0.03</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.95</td> <td>影響値 0.9</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>e. 吹抜け(階段室は除く)</td> <td>0.1以下</td> <td>$0.1 < e \leq 0.3$</td> <td>0.3より大</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吹抜面積/床面積=</td> <td>なし</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.95</td> <td>影響値 0.9</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>f. 吹抜けの偏在</td> <td>f1:0.4以下かつ 建物-吹抜中心間距離/建物長さ:短辺f1=</td> <td>f1:0.4以下かつ $0.1 < f2 \leq 0.3$</td> <td>f1:0.4より大または f2:0.3より大</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建物-吹抜中心間距離/建物長さ:長辺f2=</td> <td></td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.98</td> <td>影響値 0.95</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>h. 地下室の有無</td> <td>1.0以上</td> <td>$1.0 > h \geq 0.5$</td> <td>0.5未満, 地下なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>地下面積/建築面積=</td> <td>なし</td> <td>影響値 1.2</td> <td>影響値 1.1</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>i. 層高の均等性</td> <td>0.8以上</td> <td>$0.8 > i \geq 0.7$</td> <td>0.7未満</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>上層階高/検討層階高=</td> <td>3.65/3.7=0.98</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.95</td> <td>影響値 0.9</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>j. ピロティ</td> <td>ピロティなし</td> <td>すべてピロティ</td> <td>ピロティ偏在</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ピロティの有無と位置</td> <td>影響値 (1.0)</td> <td>影響値 0.9</td> <td>影響値 0.8</td> <td></td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align:center;">SD (各項目の採用値の積)</td> <td>1.0</td> </tr> </table>				a. 整形性	0.1未満	$0.1 \leq a < 0.3$	0.3以上			突出部面積/床面積=	なし	影響値 (1.0)	影響値 0.9	影響値 0.8	1.0	b. 辺長比	5以下	$5 < b < 8$	8以上			長辺長さ/短辺長さ=	10.8/7.1=1.52	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0	c. くびれ	0.8以上	$0.8 > c > 0.5$	0.5以下			凹部長/凸部長=	なし	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0	d. EXP.J	なし、0.01以上	$0.01 > d \geq 0.005$	0.005未満			EXP.J間隔/EXP部建物高さ=	0.1/3.7=0.03	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0	e. 吹抜け(階段室は除く)	0.1以下	$0.1 < e \leq 0.3$	0.3より大			吹抜面積/床面積=	なし	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0	f. 吹抜けの偏在	f1:0.4以下かつ 建物-吹抜中心間距離/建物長さ:短辺f1=	f1:0.4以下かつ $0.1 < f2 \leq 0.3$	f1:0.4より大または f2:0.3より大			建物-吹抜中心間距離/建物長さ:長辺f2=		影響値 (1.0)	影響値 0.98	影響値 0.95	1.0	h. 地下室の有無	1.0以上	$1.0 > h \geq 0.5$	0.5未満, 地下なし			地下面積/建築面積=	なし	影響値 1.2	影響値 1.1	影響値 (1.0)	1.0	i. 層高の均等性	0.8以上	$0.8 > i \geq 0.7$	0.7未満			上層階高/検討層階高=	3.65/3.7=0.98	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0	j. ピロティ	ピロティなし	すべてピロティ	ピロティ偏在			ピロティの有無と位置	影響値 (1.0)	影響値 0.9	影響値 0.8		1.0	SD (各項目の採用値の積)					1.0
a. 整形性	0.1未満	$0.1 \leq a < 0.3$	0.3以上																																																																																																																						
突出部面積/床面積=	なし	影響値 (1.0)	影響値 0.9	影響値 0.8	1.0																																																																																																																				
b. 辺長比	5以下	$5 < b < 8$	8以上																																																																																																																						
長辺長さ/短辺長さ=	10.8/7.1=1.52	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0																																																																																																																				
c. くびれ	0.8以上	$0.8 > c > 0.5$	0.5以下																																																																																																																						
凹部長/凸部長=	なし	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0																																																																																																																				
d. EXP.J	なし、0.01以上	$0.01 > d \geq 0.005$	0.005未満																																																																																																																						
EXP.J間隔/EXP部建物高さ=	0.1/3.7=0.03	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0																																																																																																																				
e. 吹抜け(階段室は除く)	0.1以下	$0.1 < e \leq 0.3$	0.3より大																																																																																																																						
吹抜面積/床面積=	なし	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0																																																																																																																				
f. 吹抜けの偏在	f1:0.4以下かつ 建物-吹抜中心間距離/建物長さ:短辺f1=	f1:0.4以下かつ $0.1 < f2 \leq 0.3$	f1:0.4より大または f2:0.3より大																																																																																																																						
建物-吹抜中心間距離/建物長さ:長辺f2=		影響値 (1.0)	影響値 0.98	影響値 0.95	1.0																																																																																																																				
h. 地下室の有無	1.0以上	$1.0 > h \geq 0.5$	0.5未満, 地下なし																																																																																																																						
地下面積/建築面積=	なし	影響値 1.2	影響値 1.1	影響値 (1.0)	1.0																																																																																																																				
i. 層高の均等性	0.8以上	$0.8 > i \geq 0.7$	0.7未満																																																																																																																						
上層階高/検討層階高=	3.65/3.7=0.98	影響値 (1.0)	影響値 0.95	影響値 0.9	1.0																																																																																																																				
j. ピロティ	ピロティなし	すべてピロティ	ピロティ偏在																																																																																																																						
ピロティの有無と位置	影響値 (1.0)	影響値 0.9	影響値 0.8		1.0																																																																																																																				
SD (各項目の採用値の積)					1.0																																																																																																																				
3)簡易評価点の計算 簡易評点= $\frac{\text{保有耐力}}{\text{必要耐力}} = \frac{44.8}{70.0} = 0.64$				劣化について、建物を半日程度、目視により調査し劣化の種別、位置、数を記録し、下の表にあてはまるものを選びます。その数値が劣化の点数となりますので、構造ひび割れ、老朽化それぞれについて点数を合計してください。 ・構造ひび割れ、変形による減点数																																																																																																																					
簡易耐力の評価 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>簡易評点</th> <th>判定</th> <th>結果</th> </tr> <tr> <td>1.0以上</td> <td>危険性は低い</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0.7以上1.0未満</td> <td>耐震性にやや疑問あり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0.7未満</td> <td>危険性がある</td> <td style="text-align:center;">○</td> </tr> </table>		簡易評点	判定	結果	1.0以上	危険性は低い		0.7以上1.0未満	耐震性にやや疑問あり		0.7未満	危険性がある	○			<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ランク</th> <th rowspan="2">程度</th> <th colspan="6">部位・範囲</th> <th rowspan="2">小計</th> </tr> <tr> <th colspan="2">床・小梁</th> <th colspan="2">大梁</th> <th colspan="2">壁・柱</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="background-color: #FF0000; color: white;">悪い</td> <td rowspan="3">・不同沈下によるもの ・明らかな斜めひび割れ</td> <td>1/3以上</td> <td>0.017</td> <td>1/3以上</td> <td>0.05</td> <td>1/3以上</td> <td>0.15</td> <td rowspan="3" style="text-align:center;">0</td> </tr> <tr> <td>1/3~1/9</td> <td>0.006</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.017</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>1/9未満</td> <td>0.002</td> <td>1/9未満</td> <td>0.006</td> <td>1/9未満</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="background-color: #FFD700;">やや悪い</td> <td rowspan="3">・スラブ、小梁に支障あるもの ・離れると判別できない斜めひび割れ ・材軸に直交するひび割れ</td> <td>1/3以上</td> <td>0.005</td> <td>1/3以上</td> <td>0.015</td> <td>1/3以上</td> <td>0.045</td> <td rowspan="3" style="text-align:center;">0</td> </tr> <tr> <td>1/3~1/9</td> <td>0.002</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.005</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>1/9未満</td> <td>0.001</td> <td>1/9未満</td> <td>0.002</td> <td>1/9未満</td> <td>0.005</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="background-color: #FFD700;">普通</td> <td rowspan="3">・上記に該当しない軽微なもの</td> <td>1/3以上</td> <td>0.001</td> <td>1/3以上</td> <td>0.004</td> <td>1/3以上</td> <td>0.011</td> <td rowspan="3" style="text-align:center;">0</td> </tr> <tr> <td>1/3~1/9</td> <td>0</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.001</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>1/9未満</td> <td>0</td> <td>1/9未満</td> <td>0</td> <td>1/9未満</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align:right;">P1(減点数の計)</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				ランク	程度	部位・範囲						小計	床・小梁		大梁		壁・柱		悪い	・不同沈下によるもの ・明らかな斜めひび割れ	1/3以上	0.017	1/3以上	0.05	1/3以上	0.15	0	1/3~1/9	0.006	1/3~1/9	0.017	1/3~1/9	0.05	1/9未満	0.002	1/9未満	0.006	1/9未満	0.017	やや悪い	・スラブ、小梁に支障あるもの ・離れると判別できない斜めひび割れ ・材軸に直交するひび割れ	1/3以上	0.005	1/3以上	0.015	1/3以上	0.045	0	1/3~1/9	0.002	1/3~1/9	0.005	1/3~1/9	0.015	1/9未満	0.001	1/9未満	0.002	1/9未満	0.005	普通	・上記に該当しない軽微なもの	1/3以上	0.001	1/3以上	0.004	1/3以上	0.011	0	1/3~1/9	0	1/3~1/9	0.001	1/3~1/9	0.004	1/9未満	0	1/9未満	0	1/9未満	0.001	P1(減点数の計)								0															
簡易評点	判定	結果																																																																																																																							
1.0以上	危険性は低い																																																																																																																								
0.7以上1.0未満	耐震性にやや疑問あり																																																																																																																								
0.7未満	危険性がある	○																																																																																																																							
ランク	程度	部位・範囲						小計																																																																																																																	
		床・小梁		大梁		壁・柱																																																																																																																			
悪い	・不同沈下によるもの ・明らかな斜めひび割れ	1/3以上	0.017	1/3以上	0.05	1/3以上	0.15	0																																																																																																																	
		1/3~1/9	0.006	1/3~1/9	0.017	1/3~1/9	0.05																																																																																																																		
		1/9未満	0.002	1/9未満	0.006	1/9未満	0.017																																																																																																																		
やや悪い	・スラブ、小梁に支障あるもの ・離れると判別できない斜めひび割れ ・材軸に直交するひび割れ	1/3以上	0.005	1/3以上	0.015	1/3以上	0.045	0																																																																																																																	
		1/3~1/9	0.002	1/3~1/9	0.005	1/3~1/9	0.015																																																																																																																		
		1/9未満	0.001	1/9未満	0.002	1/9未満	0.005																																																																																																																		
普通	・上記に該当しない軽微なもの	1/3以上	0.001	1/3以上	0.004	1/3以上	0.011	0																																																																																																																	
		1/3~1/9	0	1/3~1/9	0.001	1/3~1/9	0.004																																																																																																																		
		1/9未満	0	1/9未満	0	1/9未満	0.001																																																																																																																		
P1(減点数の計)								0																																																																																																																	
□保有耐力の計算 保有耐力 = $100 * 0.5 * SD * T = 50 * 1.000 * 0.896 = 44.8$ 「100」の仮定 :保有する基礎的な性能は100点として計算します。 0.5の仮定 :昭和56年以前、地震力が本土の半分で設計されていた時期があることにより。 SDの仮定 :建物の平面・立面形状による低減 右側にある解説に従い計算します。 SD= 1.00 Tの仮定 :劣化による低減 構造ひび割れの減点数の合計をP1、老朽化の減点数の合計をP2とし、下式で計算します。 $T = (1-P1) * (1-P2) = (1-0) * (1-0.104) = 0.896$ P1, P2は右側の解説に従い計算します。				<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ランク</th> <th rowspan="2">程度</th> <th colspan="6">部位・範囲</th> <th rowspan="2">小計</th> </tr> <tr> <th colspan="2">床・小梁</th> <th colspan="2">大梁</th> <th colspan="2">壁・柱</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="background-color: #FF0000; color: white;">悪い</td> <td rowspan="3">・鉄筋錆による膨張ひび割れ ・鉄筋腐食 ・火災による肌割れ</td> <td>1/3以上</td> <td>0.017</td> <td>1/3以上</td> <td>0.05</td> <td>1/3以上</td> <td>0.15</td> <td rowspan="3" style="text-align:center;">0.084</td> </tr> <tr> <td>1/3~1/9</td> <td>0.006</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.017</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>1/9未満</td> <td>0.002</td> <td>1/9未満</td> <td>0.006</td> <td>1/9未満</td> <td>0.017</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="background-color: #FFD700;">やや悪い</td> <td rowspan="3">・錆汁の溶け出し ・仕上げの剥落</td> <td>1/3以上</td> <td>0.005</td> <td>1/3以上</td> <td>0.015</td> <td>1/3以上</td> <td>0.045</td> <td rowspan="3" style="text-align:center;">0.005</td> </tr> <tr> <td>1/3~1/9</td> <td>0.002</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.005</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.015</td> </tr> <tr> <td>1/9未満</td> <td>0.001</td> <td>1/9未満</td> <td>0.002</td> <td>1/9未満</td> <td>0.005</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="background-color: #FFD700;">普通</td> <td rowspan="3">・雨水等による著しい汚れ ・仕上げの軽微な老朽化</td> <td>1/3以上</td> <td>0.001</td> <td>1/3以上</td> <td>0.004</td> <td>1/3以上</td> <td>0.011</td> <td rowspan="3" style="text-align:center;">0.015</td> </tr> <tr> <td>1/3~1/9</td> <td>0</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.001</td> <td>1/3~1/9</td> <td>0.004</td> </tr> <tr> <td>1/9未満</td> <td>0</td> <td>1/9未満</td> <td>0</td> <td>1/9未満</td> <td>0.001</td> </tr> <tr> <td colspan="8" style="text-align:right;">P2(減点数の計)</td> <td>0.104</td> </tr> </tbody> </table>				ランク	程度	部位・範囲						小計	床・小梁		大梁		壁・柱		悪い	・鉄筋錆による膨張ひび割れ ・鉄筋腐食 ・火災による肌割れ	1/3以上	0.017	1/3以上	0.05	1/3以上	0.15	0.084	1/3~1/9	0.006	1/3~1/9	0.017	1/3~1/9	0.05	1/9未満	0.002	1/9未満	0.006	1/9未満	0.017	やや悪い	・錆汁の溶け出し ・仕上げの剥落	1/3以上	0.005	1/3以上	0.015	1/3以上	0.045	0.005	1/3~1/9	0.002	1/3~1/9	0.005	1/3~1/9	0.015	1/9未満	0.001	1/9未満	0.002	1/9未満	0.005	普通	・雨水等による著しい汚れ ・仕上げの軽微な老朽化	1/3以上	0.001	1/3以上	0.004	1/3以上	0.011	0.015	1/3~1/9	0	1/3~1/9	0.001	1/3~1/9	0.004	1/9未満	0	1/9未満	0	1/9未満	0.001	P2(減点数の計)								0.104																											
ランク	程度	部位・範囲								小計																																																																																																															
		床・小梁		大梁		壁・柱																																																																																																																			
悪い	・鉄筋錆による膨張ひび割れ ・鉄筋腐食 ・火災による肌割れ	1/3以上	0.017	1/3以上	0.05	1/3以上	0.15	0.084																																																																																																																	
		1/3~1/9	0.006	1/3~1/9	0.017	1/3~1/9	0.05																																																																																																																		
		1/9未満	0.002	1/9未満	0.006	1/9未満	0.017																																																																																																																		
やや悪い	・錆汁の溶け出し ・仕上げの剥落	1/3以上	0.005	1/3以上	0.015	1/3以上	0.045	0.005																																																																																																																	
		1/3~1/9	0.002	1/3~1/9	0.005	1/3~1/9	0.015																																																																																																																		
		1/9未満	0.001	1/9未満	0.002	1/9未満	0.005																																																																																																																		
普通	・雨水等による著しい汚れ ・仕上げの軽微な老朽化	1/3以上	0.001	1/3以上	0.004	1/3以上	0.011	0.015																																																																																																																	
		1/3~1/9	0	1/3~1/9	0.001	1/3~1/9	0.004																																																																																																																		
		1/9未満	0	1/9未満	0	1/9未満	0.001																																																																																																																		
P2(減点数の計)								0.104																																																																																																																	
□必要耐力の計算 必要耐力 = $100 * \text{地域係数} * \text{地盤割増} = 100 * 0.70 * 1.00 = 70$ 「100」の仮定 :必要な性能は100点として計算します。 地域係数 0.7 :立地条件による割増し 地盤割増 1.0 : ※がけ地、局所的高台、地層の不整合(断層) に建つ場合 1.25 とする																																																																																																																									
□発注者への報告事項 1. この簡易な判定は貴邸の保有する性能や、必要とする性能は標準的であるとして試算したものです。 2. 耐震診断は昭和56年6月以前に確認申請を受けた建物が、それ以降の新しい建物(大地震時に倒壊しないことを確かめている)と同様の耐震性を持つかどうかを判定するもので、標準的な性能とみるのは少し過大な評価です。 3. 保有する耐震性能は、主に劣化や建物形状による減点をしました。必要とする性能は、立地条件から割増しました。 4. その結果は、劣化による影響から「危険性がある」との判定結果になりました。 5. 右の欄に貴邸の耐震性能に影響する劣化現象を目視調査して、結果を記載しました。劣化の著しい箇所は耐震性とは別に手当をされる様にお勧めします。		計算結果集計欄 簡易評点= $\frac{\text{保有耐力}}{\text{必要耐力}} = \frac{44.8}{70.0} = 0.64$		簡易判定結果 危険性がある		作成・監修 沖縄県土木建築部建築指導課 TEL 098-866-2413 FAX 098-866-3557		本件に関する問い合わせは NPO法人 沖縄県建築設計サポートセンター TEL 098-879-1020 FAX 098-879-1026																																																																																																																	